

容器包装の3R推進のための自主行動計画 2008年フォローアップ報告

3R推進団体連絡会

- ガラスびんリサイクル促進協議会
- PETボトルリサイクル推進協議会
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会
- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- スチール缶リサイクル協会
- アルミ缶リサイクル協会
- 飲料用紙容器リサイクル協議会
- 段ボールリサイクル協議会



自主行動計画フォローアップ報告内容

I.. 事業者による3R推進の2007年度実績概要

- リデュース：2010年目標に向け、着実にリデュースが進展
- リユース：リターナブルシステムの調査研究を実施
- リサイクル：回収率・リサイクル率は目標に向け着実に向上

II.. 主体間の連携に資する取り組み

- 八団体共同の取り組みの展開
 - 独自企画の連携イベント開催
フォーラム、セミナー、3Rリーダー交流会
 - 各種展示会への共同出展
 - ホームページを開設
 - AC(公共広告機構)を通じたリサイクル啓発広告の展開
- 共通テーマ(普及啓発と調査研究)に基づく各団体の取り組みの展開

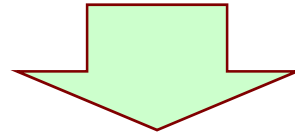
3R推進団体連絡会

容器包装リサイクル法改正の審議過程

事業者の役割
の徹底・深化

主体間連携の
強化

3R推進団体連絡会の結成：2005年12月



3R推進自主行動計画（2006～2010年度）

2006年3月28日 公表

I.. 事業者による3R推進に向けた自主行動計画

2010年度推進目標

Reduce リデュース

- 軽量化・薄肉化による使用量削減（数値目標）
- 適正包装の推進
- 詰め替え容器の開発

Reuse リユース

- リターナブルシステムの調査・研究

Recycle リサイクル

- リサイクル率・回収率・カレット利用率等の維持・向上
- つぶしやすい容器包装の開発
- 洗浄・分別排出への啓発
- 減容化機器の調査・開発
- リサイクルしづらいラベルの廃止、及び剥がしやすいラベルの工夫
- 複合材の見直し
- 自主回収の研究・拡大

Ⅱ. 主体間の連携に資する取組み

消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ**消費者・自治体・国**等との連携に資する取組みを展開します。

関係八団体共同の 取組み

容器包装廃棄物の3R推進普及啓発のため、

- フォーラムの開催
- セミナーの開催
- 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、
情報提供の拡充

各団体が取り組む 共通のテーマ

- 情報提供・普及活動(各団体の既存の取組みの活用も含む)
 - ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
 - ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
 - ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催の研究会への参加と協力
 - ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成
- 調査・研究
 - ・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究
 - ・分別収集効率化等のモデル実験への協力

定量指標をご報告するにあたって

Reduce

軽量化状況を把握・集計するためには、容器包装製造事業者からの情報提供が必須。

* 製造事業者が集中し、組織化されている容器包装素材……把握が可能

* 製造事業者が分散し、組織化されていない容器包装素材

……把握が困難もしくは、把握するために組織化等時間を要する取組みになる

紙製容器包装・プラスチック製容器包装が置かれている状況

Recycle

リサイクル率や回収率といった指標を調査・集計するためには、自治体・事業者から排出される段階～商品化を行う事業者までのリサイクルフローのなかでなるべく商品化に近い段階のリサイクル関連データの把握が可能かによって決まる。

8 容器包装素材のリサイクルの歴史も異なり、今現在はさまざまな指標が用いられている。

リサイクル率……ガラスびん、アルミ缶、スチール缶

回収率……PETボトル、飲料用紙容器、紙製容器包装、段ボール

収集率……プラスチック製容器包装

今後調査研究を進める中で、理解しやすい指標への統一に努力していきたい。

Reduce
リデュース

- 軽量化・薄肉化による使用量削減
(数値目標を含む)
- 適正包装の推進
- 詰め替え容器の開発

リデュース

- 地球資源の保護の観点から優先的に取り組むべき事項として、循環型社会形成推進基本法にも掲げられています。
- 連絡会では、容器包装の軽量化・薄肉化や適正化等に取り組んでいます。

2010年目標に向け、着実にリデュースを推進中

リデュース 軽量化・薄肉化等による使用量削減(数値目標)

素材

2010年度目標
(2004年度比)

2006年度実績

2007年度実績

① 事例として把握した削減量：計 **4,617トン**

- ・ トレーの薄肉化：**3,207トン/年**（食品関連）
- ・ 外装フィルム、シュリンクフィルム薄肉化：**1,050トン/年**（食品関連）
- ・ 清涼飲料関連ボトルのキャップの軽量化：**360トン**（飲料関連）

② 原単位改善効果の換算値：**計 4,293トン**

日本石鹼洗剤工業会、日本植物油協会は基準年比(2004年) **6%、3~14%**(主力製品群)の成果を上げており、原単位改善効果を量に換算すると、**4,100トン、193トン**になる（報告書P29）

命巴表

プラス
チック
製容器
包装

3%削減

- ① 事例として把握した
削減量 **1,339トン**
- ② 原単位改善効果の
換算値 **4,900トン**

- ① 事例として把握した
削減量 **4,617トン**
- ② 原単位改善効果の
換算値 **4,293トン**

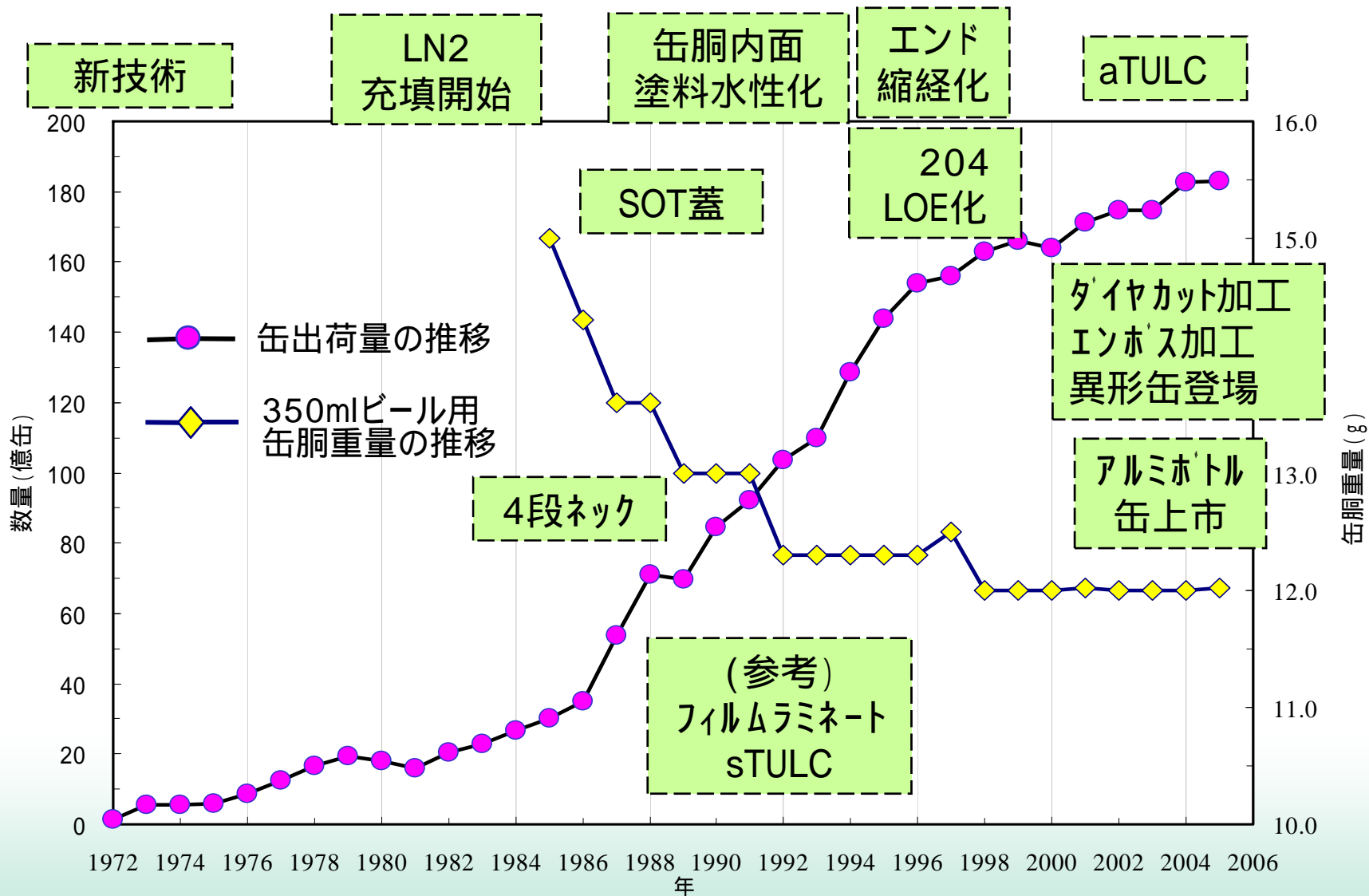
リデュース 軽量化・薄肉化等による使用量削減(数値目標)

素材	2010年度目標 (2004年度比)	2006年度 実績	2007年度 実績
スチール 缶	1缶あたり平均 重量で 2% 軽量化	1缶あたり平均 重量 1.0% 軽量化	1缶あたり平均重量 1.1% 軽量化
アルミ 缶	1缶あたり平均重 量で 1% 軽量化	1缶あたり平均重量 0.7% 軽量化	1缶あたり平均重量 0.5% 軽量化
飲料用 紙パック	重量を平均 1% 軽量化	変化無し	変化無し
段ボール	1m ² あたりの重量 を 1% 軽量化	1m ² あたり 0.6% 軽量化	1m ² あたり平均重量 0.7% 軽量化

リデュース

軽量化・薄肉化事例：アルミ缶

事例1：アルミニウム缶出荷量推移と缶重量の変遷



リデュース

軽量化・薄肉化事例：PETボトル

事例2：国内指定PETボトル軽量化状況

絶対量の多い4種類についての軽量化状況

耐熱2L PETボトル 高温で中味充填する場合

2004年までに、過去20年間で26%軽量化

2004年以降、3.7%軽量化

耐熱500ml PETボトル

2004年までに、過去8年間で19%軽量化

2004年以降、2.7%軽量化

無菌2L PETボトル 常温無菌な状態で中味充填する場合

2004年以降、7.8%軽量化

無菌500ml PETボトル

2004年以降、10%軽量化



POLY
ETHYLENE
TEREPHTHALATE

30 数年間、軽量化推進でほぼ限界



2004年/1970年比
軽量化推進実績

350g缶

63%軽量化達成

190g缶

20%軽量化達成



30 数年間の軽量化推進により、更なる軽量化は缶自体の機能維持上限界にきている。